



お住まいの所によっては、まだ肌寒い日が続いていることと察します。皆さまお変わりありませんか。今年のカナダ教団総会は4月27-28日にカルガリーにて開催されます。

総長室からの報告

私が開教使議長を務めていた頃は、教団の理事会は年に二度（春と秋）でしたが、今は毎月第三火曜日の夜に約1-2時間程電話にて会議を行っています。開教使会からは議長が加わり、ほぼ毎月教団運営に関する議案が検討されています。

総長の職務として各仏教会への公式訪問を行っています。昨年の総会からの訪問は以下の通りです。

2017年11月24-26日：ケローナ・バーノン仏教会

2017年12月14-17日：マニトバ仏教会

2018年3月2-4日：南アルバータ仏教会

2018年6月14-17日：トロント仏教会

私の任期中にまだ訪れていないお寺は残すところカムループス仏教会のみとなりました。駐在開教使と相談の上、近いうちに寄せて頂きます。

本山である西本願寺との相互連絡も多く、特筆すべきことは、2016年10月1日から始まった大谷光淳様の御門主になられた伝灯奉告法要（でんとうほうこくほうよう）が2017年5月31日をもって無事に終わったことです。カナダ教団からは2016年10月に生田 Grant 開教使がカナダから16名を引率して法要へ団体参拝を行い、海外開教区の総長は一同に昨年3月の法要へ参列。その時にカナダ教団から5,000カナダドルの寄付を本山へ納めました。大谷光淳ご門主様は、国内外の全教区への巡回を希望されており、カナダへは2015年5月に

カルガリーで開催された、世界仏教婦人会大会に合わせてお越しくださいました。2017年9月にはハワイ開教区、2018年3月には台湾開教地をご巡回されました。

他にも様々な本願寺との連絡や手続きが定期・不定期にあります。例えば、新年に各仏教会の寺報に掲載されるご門主様の新年の挨拶の執筆依頼も毎年半年前までに、公式文書にて申請をする必要があります。日本から招喚する講師の先生の手続きや、開教使の先生の宗務員登録手続き、等。本願寺の刊行誌である『宗報』にて、海外の寺院紹介の依頼があり、今回はスティブストン仏教会（生田先生）と南アルバータ仏教会（泉先生）へ執筆の依頼、そして本願寺への提出し、既に掲載されました。

2017年5月には世界浄土真宗連絡協議会という通称「総長会議」が本山で行われ、海外の開教総長（北米、ハワイ、南米、カナダ）と本山の代表（海外担当総務と国際部部長）が集まりました。この会議では主に、総長や開教使の職務に関して詳細な確認が行われます。昨年の会議では主に以下のことが話し合われました。

海外の総長が帰依式を行う際の儀式執行の確認。

開教使の法衣（袈裟）等の着用の見直し。

御門主様の著書の英訳と海外での販売検討。

ケニア開教活動の終結（活動が確認できない為）。

サンフランシスコに本願寺国際部の支部を設ける案。

これはとりわけ総長のみの仕事ではありませんが、昨年7月10-23日まで本願寺主催の青少年国際研修（YBICSE）の引率をしました。カナダ各地から男女5名が主に京都、そして東京にて研修を行いました。暑さと湿度の高い中、誰一人体調を崩すことなく全員帰国できホッとしています。

総長は、院号や感謝状の発行も行います。各仏教会の承認を得て、駐在開教使が所定の申込書に記入・提出し、

総長室にて受理・発行を行います。また、開教使は結婚式の司婚ライセンスをそれぞれ住んでいる州にて交付されています。そのライセンスのアップデートが定期的に各州から連絡があるので、その確認を行います。

以上、事務作業は基本的に多少の時間は要するものの、机の上で済む仕事です。昨今の大きな取り組みは今後の開教使の育成と支援に重きを置いており、悩むことが多いです。

開教使に関して

仏教会への視察を通して、カナダの開教使の先生は一同、仏教会の為に、メンバーの為に、そしてコミュニティーや一般の方々へ尽力されている姿を窺い知ることができます。それは、皆さまも異存のないことでしょう。みなさまには、引き続き先生達へのサポートを改めてお願い申し上げます。

東部地区（トロント仏教会駐在）のクリスティーナ・ヤンコ先生が一身上の都合により、2017年12月31日をもって辞職いたしました。それに伴い、トロント仏教会から英語を母国語とする開教使の追加派遣の依頼を受けています。

2015年12月に末期癌で林マイケル先生が突然亡くなり、カナダの開教使が少なくなってきました。林先生が駐在していたウィニペグのマントバ仏教会は毎月一度主にカナダの開教使が出向いての参拝を継続しています。マントバ仏教会からは、諸事情からパートタイムで勤められる開教使の派遣依頼を受けています。

大内祐真（おおうち ゆうしん）先生が、東部地区にて一年の実地研修を終え、開教使の資格を西本願寺から与えられました。9月1日付で東部地区着任の辞令があり、継続して東部地区に着任しています。大内先生は九州の大分出身で、儀式を行うプロの資格「特別法務員（と

くべつ ほうむいん）」を持っています。カナダでこの資格を持っているのは、大内先生だけです。また、彼は龍谷大学在学中にアメリカに一年間留学していたので、英語も堪能であり非常にコミュニケーション能力の高い先生です。カナダへ来ていただいたことをとても嬉しく思います。

カルガリーからは、ロバート・グベンコさんが開教使を志しています。グベンコさんは、カルガリー仏教会のメンバーで、アシスタントとして開教使を支え2014年に得度を受けられ以降は、得度アシスタントとして、引き続き仏教会と開教使を支えています。次のステップは、開教使になる為に必須の教師教修（きょうし きょうしゅう）という資格を受けに今年11月に日本へ行きます。ここ2年はその資格取得の為に勉強期間で、4月にはバンクーバーにて準備の確認と儀式・教義の講習会を受けることになっています。

開教使の昔と今

以前までは、開教使が仏教会から辞職する時には、総長が本山へ連絡し、開教使の資格を得た日本人の僧侶を派遣してもらうという流れでした。昨今は仏教会の運営（会議等）もお参りも全て英語で行われています。日本から来る開教使が「英語は現地で学ばばよい」という一昔前の時代とは違い、語学力もさることながら、コミュニケーション力、違う文化への適応力が大切になっています。そのような仏教会のありかたの変化の中、開教使も今後は現地採用が増えてくることが予想されます。また、一部の仏教会では、得度を受けてアシスタントとなる方も増えてきています。一昔前ですと、補教使（ほきょうし）という立場だったのでしょうか。現状では、アシスタントは駐在開教使と所属仏教会理事の推薦でなることができます。なりたいからといってなれるわけではなく、しっかりと仏教会の仏事・行事に参加してボラ

ンティアとして支えていく姿勢によるものが大きいと思います。しかしながら、アシスタント・プログラムは、そう簡単な事でもなく、色々な課題が含んでいますので、継続してプログラムの見直しが必要です。

世界仏教婦人会代表者会議

二年に一度行われる仏教代表者会議が2017年8月31日から9月2日までサンフランシスコにて開催されました。カナダからはローリー・ノースさん(フレイザーバレー)、スーザン・ハントリーさん(カルガリー)、私(海外総長はアドバイザーの立場)の三名がカナダを代表して会議に出席しました。尚、今年の会議にて引き続き検討が必要な議案が多数残った為、今年4月に本願寺からの召集で特別会議が開催され、スーザンさんと私がカナダを代表して出席することになっています。

2019年8月31日-9月1日にはサンフランシスコにて世界仏教婦人会大会が開催されますが、今は日程のみ決定しており、申し込みや日程表の配布等は未だのようです。

最後に・・・

最近カナダに限らず、どこの仏教会へ伺っても、メンバーの減少に悩んでいます。お参りやボランティアによく来るようになった方にメンバーになるよう勧めてみても、「メンバーになるとどのような特典があるのか？」と聞いてくるそうです。お寺はフィットネスジムのように、会費を払いメンバーになることによって、ジムやボールの施設・設備が使えるということではありません。お寺の場合、寺報(ニュースレター)は大抵インターネットで無料で読むことができるし、メンバーにならなくても日曜礼拝や祥月に参拝もでき、ボランティアで掃除やチャーメン・饅頭作りに来ることができます。そうす

ると最近の方は「なぜ会費を払ってお寺のメンバーになる必要があるのか？」となってしまいます。何も、会費を払いたくない訳でもありません。そのような方達の多くは、ドネーションをすることで、経済的な支援をしてくれています。今の時代、払ったものへの対価を考え納得しなくては払わない思考なのでしょう。

先日、バンクーバーにある小児病院(BC Children's Hospital)で新しいお医者さんや看護師さんに仏教の教えを話す機会がありました。病院に到着し、受付でどこへ行けばよいのか伺っている時に、僧侶の法衣・袈裟を着た私にある男性の方が話しかけてきました。講義を控えていたので、手短かに彼からの仏教の質問に答え、今度は私が彼に「この病院に来ているのは、どなたか入院しているのですか？」と尋ねました。そうすると彼は「ノー！ノー！自分の子供はいたって健康で、医者しらずだ！」とこたえました。そして彼は続けて「だからこそ、私は病院に寄付をしに来たのです。」と言うのです。要するに、自分の子供が入院する縁がない位健康で、その感謝の気持ちを病院へ寄付するという形で表しているのですね。

お勤めの時に読む、「三帰依文(さんきえもん)」に「人身(にんじん)受け難(がた)し、いますでに受く。仏法聞き難(がた)し、いますでに聞く」とあります。この世に人として身を受けることは、私の思いをはるかに超えるほど珍しいことです。出遭うことが難しい仏のみ教えに、今、私は出遭うことができた。このように、既に頂いている有難さに気付くこと仏教の大事な教えの一つです。メンバーになれば何を得られるかではなく、既に頂いている喜びに気付き、それを更に多くの人々へ共有(自利利他)できるよう仏教会のメンバーになるということが、メンバーになる大きな意義だと私は思います。

合掌

青木龍也